

飯田市 歴研ニュース

飯田市歴史研究所
21.12.01

News Letter

No. 115

The Iida City Institute
of Historical Research

2021年12月1日 発行

飯田市歴史研究所

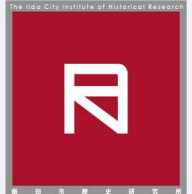
〒395-0803

長野県飯田市鼎下山538

TEL 0265-53-4670

FAX 0265-21-1173

E-mail iih@city.iida.nagano.jp



ワークショップ

『下伊那の宗教文化ネットワーク

—松下千代と松尾多勢子を中心に—

を開催します

●日 時：2021年12月18日(土) 9:00～14:00

●会 場：飯田市役所 C棟3階会議室

●報告1：松尾多勢子のネットワーク

歌合わせ・勤王運動・周旋活動の場面

アン・ウォルソールさん（カリフォルニア大学アーバイン校名誉教授）

報告2：不二道の信者ネットワークと松下千代

宮崎ふみ子さん（恵泉女学園大学名誉教授）

コメント：栗谷真寿美さん（市民研究員）

竹村雄次（特任研究員）



松尾多勢子肖像



慈行三千壽像
(松下千代)

●資料代：300円 ※オンラインでのリモート参加は無料

●参加方法：①会場での受講（定員40名）②ご自宅等でのオンライン受講

●申込方法：12月16日（木）までに電話(0265-53-4670)・FAX(0265-21-1173)・メール(iih@city.iida.nagano.jp)のいずれかでお申込み下さい

※当日の昼休みは短時間（30分）となりますので、軽食などをお持ちいただくことをお勧めします

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発熱や咳の症状のある方は会場での参加をご遠慮ください。また、感染状況により、開催日の1週間前に会場開催の実施の可否を判断します。

歴史研究所では、ワークショップ「下伊那の宗教文化ネットワーク —松下千代と松尾多勢子を中心に—」を開催します。

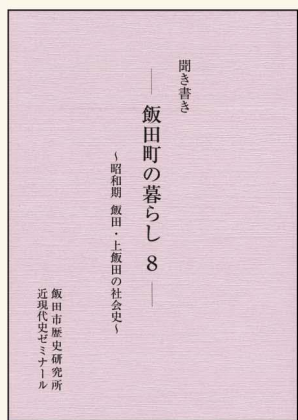
松尾多勢子は、文化8（1811）年、山本村（現・飯田市山本）で生まれました。彼女は飯田城下の福住清風などから和歌を学び、これに傾注していきます。また、19歳で伴野村（現・下伊那郡豊丘村伴野）の松尾元珍と結婚し、家事と育児に勤めますが、国学に出会い、平田篤胤の没後門人となり、文久2（1862）年、52歳で幕末の京都に単身上り、尊王攘夷運動に身を投じました。その中では、国学の仲間のみならず、維新の志士や岩倉具視などとも関係をもつことになりました。

一方、松下千代は、寛政11（1799）年、飯田城下伝馬町で生まれました。15歳で婿養子の治兵衛と結婚、その後、池田町（現・飯田市通り町2丁目）に分家し、文政10（1827）年に遠州の若い商人の教えを受け「不二道」に入信します。不二道とは、富士信仰に基づく民間の宗教運動ですが、千代は信州の信者たちのリーダー（世話人）となり、様々な奉仕活動を行い、布教を進めました。また、彼女は、8回の富士参詣に加え、各地の世話人と連絡を取り合うため、江戸や京都など広い範囲を旅しました。

今回のワークショップでは、『たをやめと明治維新 松尾多勢子の反伝記的生涯』（ぺりかん社、2005年）の著者アン・ウォルソール氏と、これまで不二道や松下千代の研究に取り組まれてきた宮崎ふみ子氏をお招きし、松尾多勢子と松下千代という、同時代に活躍した2人の女性に光をあて、彼女たちがとり結ぶネットワークという視点から、飯田・下伊那における江戸時代後期～明治維新期の宗教・思想・文化と地域社会との関係、その中での女性の位置などについて考えます。

新刊 案内

聞き書き『飯田町の暮らし』8 —昭和期 飯田・上飯田の社会史—



2021年10月 刊行

近現代史ゼミナール 編
飯田市歴史研究所 発行
B5判 217頁 定価 800円

近現代史ゼミでは、2002年から、旧飯田市を対象とした聞き書き研究を実施し、その成果として『飯田町の暮らし』を刊行してきました。本書はその第8巻で、以下の6話が収録されています。①元結問屋から割烹業へ。②ベトナムでの戦争体験から靴屋へ。③銀座界限と時計店。④うたごえ運動から婦人運動へ。⑤平岡で在日朝鮮人と過ごし、看護師に。⑥図書館司書としての実践。私たちは、この聞き書き研究において、「個人にとって、歴史とは何であったのか」という問いを探ってきました。そして、『飯田町の暮らし』が人生の記憶を継承し、地域再生へと人々を結びつけていく、微力ではありますが、一助になればと、願っています。

田中雅孝(特任研究員)

新刊 案内

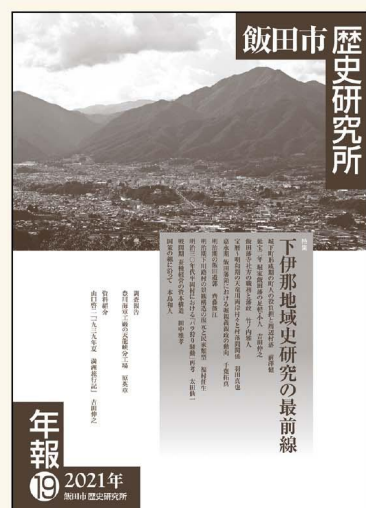
飯田市歴史研究所 年報①9

2021年11月 刊行

飯田市歴史研究所 編
B5判 252頁 定価 1,800円

【特集】下伊那地域史研究の最前線

城下町形成期の町人の役負担と周辺村落……………	前澤健
延宝二年、堀家飯田藩の足輕・小人……………	吉田伸之
飯田藩寺社方の職務と藩政……………	竹ノ内雅人
宝暦～明和期の天竜川兩岸村々と村落間関係……………	羽田真也
嘉永期、飯田藩領における堀親義親政の動向……………	千葉拓真
明治期の飯田遊廓……………	齊藤俊江
明治期下川路村の景観構造の復元と民家類型……………	福村任生
明治三〇年代平岡村における「バラ狩り騒動」再考……………	太田仙一
戦間期・蚕種経営の資本構造……………	田中雅孝
国策の線に沿って……………	本島和人



年報 19 号は、コロナ禍のなかで編まれた論文特集号です。近世史から現代史までの計 10 本の論文を収録し、さまざまなテーマを史料に基づいて掘り下げます。また、調査報告として原英章「豊川海軍工廠の天龍峡分工場」、資料紹介として吉田伸之「山口啓二「一九三九年夏 満洲旅行記」」を収録します。テーマや方法は多岐にわたりますが、それぞれ下伊那の地域史研究の最前線を描く充実した内容となります。

コロナ禍と地域史研究

伊藤 毅（青山学院大学教授 / 歴史研究所顧問研究員）

このところ地域史研究関係の集会在立て続けにあって、コロナ禍と地域という問題を否が応でも考えさせられている。9月11・12日は飯田市歴史研究所の文化的景観にかかわる研究集会（たいへんな盛況でよかった）、10月9日TV東京「新・美の巨人たち」で文化的景観葛飾柴又が取り上げられ、番組制作協力と出演（ちよい役）、10月21日葛飾柴又にて建築家内藤廣氏とともに「葛飾柴又の魅力・再発見トークセッション」に参加（リアル集会）、11月6日渋谷学シンポジウム「渋谷を科学する」に登壇、という具合にオンライン・リアル取り混ぜながら、地域の魅力発見や将来展望についてあれこれ考え、地域を応援する言葉を繰り出しながらも、一方で割り切れぬ不思議な感覚にとらわれている。

コロナ禍の2年間、オンライン会議や講義という慣れない経験が唐突にやってきた。それは目新しくもあり、便利さもあったので、当初はその物珍しさを楽しんでいるところもあったが、これが2年も経つともう辟易してしまう。PCにはお馴染みの、参加者の顔がグリッド状に並ぶ画面。必要な情報交換はこれで十分だが、参加者はグリッド＝等価で無機質な存在としてレイアウトされる。

当たり前のことだが、明らかにサイバー空間には身体性が欠如しているのだ。参加者の自宅やオフィスのリモート空間同士がディスプレイ上に電子的に並べられているに過ぎないから、自分が真に会合に参加しているという確信が持てない。首から下は自宅、首から上はアバターとしてサイバー空間にあって、身体が二つに引き裂かれながらも、いずれもいま語ろうとしている地域の現場には不在、という不思議な感覚。こんな支離滅裂な宙づり状態で、果たして地域を語る資格があるのかとも自省する。

地域史研究はもちろんリモートで可能な部分が広がったし、メリットもあるので、それは大いに活用しつつも、やはり現地という場が不可欠である。この当たり前の事実こそ重要である。11月13・14日は久しぶりに飯田のリアルな調査が予定されている。リアルな地域のありがたみを噛みしめたいと思う。

地域史講座

「王子製紙の遠山進出とその影響―王子製紙中部工場と遠山地域―」

講師 太田仙一（歴史研究所研究員）



王子製紙中部工場の全景

明治28年、王子製紙は遠山の共有山の伐採権を買収しました。遠山の木材を原料として、明治29年には静岡県佐久間村の中部（なかっべ）に中部工場を設立することを決定しました。

王子製紙が遠山の山林に目をつけ、工場を設立した背景には、日清戦争があります。日清戦争は戦争を報道する新聞報道への関心を高め、新聞紙の需要を高めました。中部工場は、新聞用紙を生産するための工場として位置づけられており、遠山の山林の木材は、日本全国に届けられる新聞紙の原材料になったのです。

王子製紙の進出は、遠山に様々な影響を与えました。木材伐採を担う人夫たちへの物資供給など経済的な発展をもたらす一方で、地域内での利害対立を顕在化させることになりました。多角的な視点から、王子製紙の遠山進出を検討していきたいと思います。

◇日時：2月5日（土） 14:00～16:00

◇会場：南信濃公民館

◇定員：40人（オンラインでもご参加いただけます）

◇申込方法：2月3日（木）までに、電話・FAX・メールのいずれかでご連絡ください

飯田アカデミア2021 第96講座 アイルランドの農村一揆

講師 **勝田 俊輔さん**
(東京大学大学院人文社会系研究科教授)

日時 **2月12日(土)・13日(日)**

会場 **飯田市役所
C棟3階C311～313会議室**

資料代 **500円 ※高校生以下無料**

〈12日〉

第1講 13:30～15:00

アイルランドの農村社会：貧困と開発

第2講 15:20～16:50

義賊と「キャプテン」：一揆勢のモラル

〈13日〉

第3講 10:00～11:30

秘密結社と千年王国主義：反体制運動の可能性

第4講 13:00～14:30

国家の対応：警察と救済



18～19世紀のアイルランドでは各地で農村一揆が頻発しました。一揆勢は夜間に白い上衣をまとって現れたため、ホワイトボイズと総称されました。彼らは「キャプテン」と呼ばれたリーダーに率いられて、「掟」を破った者に制裁を加えることで村人のさまざまな利害を守ろうとした一方で、地域をこえて地下組織を広げ、政府の転覆を構想することさえありました。この講座では、農村の社会経済状況、一揆勢の心性や組織、一揆への国家の対応など多様な視点からの分析を行うことで、アイルランド農村一揆の全体像に迫ることを試みます。

申込み ※1 講義のみでもご参加いただけます。

①会場での受講(定員40名) ②ご自宅等でのオンライン受講 のどちらかでご参加いただけます。
いずれも、**2月4日(金)**までにお電話(0265-53-4670)でお申込みください。
その際に受講方法等についてご案内させていただきます。

☆飯田アカデミアは、歴史学における第一線の研究者に、最新の研究成果をわかりやすく紹介していただくものです。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発熱や咳の症状のある方は会場での参加をご遠慮ください。また、感染状況により、開催日の1週間前に会場開催の実施の可否を判断します。

歴研ゼミ&ワークショップ12月・1月の予定

受講生募集!

会場：歴史研究所 研修室 ※満洲移民研究ゼミは12月は上郷公民館、1月は県公民館にて開催します。

建築史ゼミ

担当：福村任生(研究員)

12月17日/1月21日

(第3金曜日) 19:00～21:00

近世史ゼミ

担当：羽田真也(研究員)

12月8日・22日/1月12日・26日

(第2・第4水曜日) 18:30～20:30

近現代史ゼミ

担当：田中雅孝(特任研究員)

12月11日・25日/1月22日

(第2・第4土曜日) 10:00～11:40

※1月8日は満洲移民研究ゼミと重なるため休講

思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場

12月1日・15日/1月5日・1月19日

(第1・第3水曜日) 19:00～21:00

満洲移民研究ゼミ

担当：本島和人(調査研究員)

齊藤俊江(調査研究員)

第120回 12月4日/第121回 1月8日

(第1土曜日) 10:00～11:40

※1月は予定が変更になっています

地域史ゼミ

担当：太田仙一(研究員)

12月10日/1月14日

(第2金曜日) 18:30～20:30

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL: 0265-53-4670

各種講座、アカデミア、ゼミについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発熱・咳などの症状のある方やマスクを着用されない方の受講はご遠慮ください。また、今後の感染状況により、延期または中止をする場合がありますのであらかじめご了承ください。

開所時間：午前9時～午後5時 休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日

メール配信への切り替えをご希望の方は、E-mail: iihr@city.iida.nagano.jp まで